

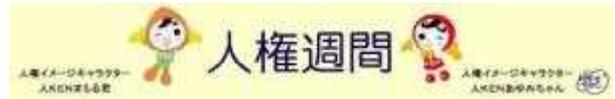
2018年  
か ぜ ひ か

# 風光れ

人権のたより 第8号 12月12日発行

三重県立津東高等学校

毎年12月4日～10日を、人権週間と言います。



しっかり自分自身を見つめ、そして横にいるクラスの友達も一人ひとりが違うことを知り、それぞれの違いを大切にすることを考える一週間でした。

「人権」とは、「自分らしく生きる」権利のこと。私は私、あなたはあなた。みんながみんな違います。だからこそ大切なのです。この人権週間は1948年（昭和23年）12月10日、国連総会で「世界人権宣言」が採択されたのを記念し、1950年（昭和25年）の国連総会で「12月10日を人権デー」と定めるとともに、全ての加盟国に実施を呼びかけました。日本では世界人権宣言採択の翌年の1949年（昭和24年）、法務省と全国人権擁護委員連合会が、12月4日～10日までの一週間を「人権週間」と決めました。少し過ぎてしまいましたが、考えてみて下さい。

先月のニュースで、映画『いろとりどりの親子』について、高校生が話し合ったことが紹介されていました。『いろとりどりの親子』は、世界24カ国で翻訳されたベストセラーを映画化したものです。自閉症やダウン症など、違いをもつ子どもとその家族合計6組を2年かけて追いつけたそうです。この映画の公開前に東京都内の高校で監督と、11名の高校生とのトークイベントが開かれました。その時、監督が高校生に「障がいを持っている人を見て、不幸だと思い込んでいませんか?」と問いかけました。それに対して「障がいを持った人の映画を作ることが差別になりませんか?」という質問をぶつける高校生がいました。さてあなたたちはどう思いますか。

「知らない」ことは恐ろしいと私は思います。初めて会う人に対して、理解しようとするよね。監督は「自分と違う人と親密になれば、差別感情というのは消えてなくなる」と言っていました。反対に、差別感を作るのは思い込みや先入観を持ってしまい、親密さを持たないから。多様な環境を作って自分と違う人を知れば、差別はなくなるというのです。

私の知り合いに大野勝彦（おおの かつひこ、1944年2月3日生まれ）さんがいます。



彼は日本の詩人・画家。熊本県菊池郡菊陽町出身です。

1989年（平成元年）7月22日農作業中、トラクターの機械により両手を切断。その彼と、20年前に伊勢までともに旅行しました。両手がありませんが、実にうまく義手を使って生活しています。何よりも全てに感謝していらっしやる姿に涙がこぼれます。私はいっぱい涙といっぱいの勇気をいただきました。

障がいは害ではなくて違いです。相手を知らないことで先入観を持つので、それを捨ててみましょう。さあ多くの人と出会っていきましょう。

